

小沢代表が辞任表明

民主役員会の「私への不信任」 連立協議否定

民主党の小沢一郎代表は四日午後、党本部で緊急記者会見し、辞任の意向を表明した。辞任理由について小沢氏は、二日の福田康夫首相(自民党総裁)との党首会談を受け、与党と連立政権に向けた政策協議に入ることを民主党役員会で提案したが、認められなかったことを挙げ、「私が選任した党役員から不信任を突き付けられたのと同じだ」と強調した。



記者会見で辞意を表明する民主党の小沢代表
〓 4日午後4時45分、東京・永田町の同党本部

党内掌握困難と判断

【解説】民主党の小沢一郎代表が辞意表明したのは、福田康夫首相との会談後に連立政権協議の提案を持ち帰ったことに党内が反発し、代表を続けても党内の掌握ができないと判断したためだ。

「大連立」を小沢氏側から持ち掛けたとの見方が浮上し、先の参院選での「政権交代で民主主義を定着させる」という訴えとの整合性が問われるのは確実。国民から不信任を招く可能性もあり、次

民主党は幹部が後継選出などをめぐり協議しているが、今後の政権戦略や国会対応に大きな影響を与えるのは必至だ。

小沢氏をめぐっては、首相との会談後に連立政権協議の提案を持ち帰ったことで党内や野党各党から批判が上がり、党内での求心力低下が指摘されていた。会見で小沢氏は、連立政権協議を提案したのは首相だと指摘。新テロ対策特別措置法案に関し首相が「連立政権ができるなら、あえて(成

期衆院選に向け指導力を発揮できる状況ではない。二日の党役員会では、小沢氏が持ち帰った大連立の提案に六人が発言。いずれも「政権交代が目的だ」「大政翼賛会的だ」などと反対意見が相次ぎ、小沢氏との溝が明確

立に)こだわらない」と述べたことを明らかにした。一方、小沢氏は民主党離党を否定、「今後の政治活動はゆつくり考えたい」と述べた。

二日の会談で小沢氏は、国連決議に基づく形での自衛隊海外派遣を随時可能にする「恒久法」の必要性を強調。具体化に向けた動きが始まれば、新テロ対策特措法案審議などに協力する考えを示した。

これに対し、首相は連立を前提として恒久法制定に取り組み考えを表明。小沢氏は会談後の党役員会に諮ったが、反対意見が相次いだため、提案を拒否する決定を首相に伝えていた。

になった。鳩山由紀夫幹事長らは「小沢代表を中心に結束を固める」と体制の維持に努める方針だったが、小沢氏自身が限界と判断した。同時に今後、小沢氏の政治行動が注目される。